

多死多歯時代に歯科医院はどう 変わらないといけないのか？

～地域に寄り添う診療所としてのあり方～

口腔機能低下症 歯科と介護の連携 歯科と栄養(フレイル予防) etc.

講師 日本歯科大学大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授
日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長

菊谷 武 先生



日時 2021年11月14日(日) 午後2時～午後4時30分

場所 つくば国際会議場 中会議室 202 つくば市竹園 2-20-3
駐車料金は各自ご負担ください

<https://www.epochal.or.jp/ja/>

定員:25人(先着申込順) 参加費:無料

※収容人数 126人の部屋ですが、ソーシャルディスタンスを確保するため
定員を25人とさせていただきます。

後日オンデマンド配信予定

修了証:「か強診」の要件に必要な「在宅医療・介護に関する研修」の修了証を交付

※修了証交付は会場参加者のみ、オンデマンド視聴者には交付いたしません。

【菊谷 武先生からのメッセージ】 8020運動も功を奏し、高齢者の現在歯数は増加を示し達成者は5割を超えました。しかし依然として咀嚼機能を低下した者の数は増え続けています。その増加は人口の高齢化に伴う身体機能低下、認知機能低下を有する者の増加と無縁ではありません。歯科医院に来院可能な患者は、ある意味、選りすぐられた健康者であり、口腔管理の不足による歯科疾患による機能低下は自己責任といえます。一方で、抗うことができない加齢や運動障害を伴う疾患の発症とともに低下する口腔機能への対応は、医療者としての責務であると思います。あらゆる医療者の中で、歯科医師のみが健康な人を対象としてきたと言ってよいでしょう。このスタイルを続けていることから未来は見えてきません。地域に寄り添う診療所として、歯科医院のあり方を大きく変える時がきています。

【菊谷 武先生プロフィール】 1989年 日本歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科診療科入局、2001年 同大学附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長、2005年 同大学助教授、2007年 同大学准教授、2010年 同大学教授・大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授、2012年 東京医科大学兼任教授、2012年 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長

主催: 一般社団法人茨城県保険医協会 TEL029-823-7930 FAX029-822-1341

参加申込書

切り取らずにFAX
029-822-1341へ
info@ibaho.jpでも可
茨城県保険医協会

医療機関名	
住所・電話	(〒) ☎
参加者名	

※お申込みいただいた方には定数内参加の可否、ご参加いただける場合の感染防止対策の注意点を郵送でお知らせします。